

「やさしい算数・数学」活用事例 外国人集住地域の民間団体での活用

#外国人集住地域 #民間団体 #NPO #個別支援 #中学生



教材ダウンロードは
こちらから



団体概要

- ・ 活動地域：神奈川県横浜市（外国人集住地域）
- ・ 活動内容：学習支援
- ・ 活動頻度：週1回、2時間（40分×3コマ）

対象の子ども



Aさん
タイ出身の中学2年生。小4で来日。
家庭での言語はタイ語と日本語。
日本語は日常会話レベル。
小学校低学年の漢字を読むのが難しい。



Bくん
フィリピン出身の中学1年生。小6で
来日。
家庭での言語は英語、タガログ語。
日本語は日常会話レベル。



やさしい算数・数学の活用

対象の子は2人とも日本語での学習は難しく、教科書や参考書の表現を用いた説明では内容理解が困難です。また、これまでの学習内容が十分に定着しておらず、さかのぼっての確認が必要なことも少なくありません。市販の問題集では難易度が高く、1、2問しか手がつけられないことも少なくありません。そこで既習範囲の復習に「やさしい数学」を活用しています。



支援者の声

Q. 教材を使うメリットは？

A. シンプルで視覚的な内容で、
子どもが自分の力で取り組み
やすい。

「やさしい数学」は日本語が少なく、視覚的に説明されているため、子ども達にとって理解しやすくなっています。問題も基礎的なので、例題を見ながら自分で練習問題に取り組むことができます。

問題数が少ないので他教材で演習量を補う必要がありますが、子どもにとってわかりやすいということは、支援者にとっても教えやすい教材です。支援者の教える技術が様々な中で、「やさしい数学」は積極的に活用したい教材の1つです。

Q. どんな変化がありましたか？

A. 日本語指導の経験が少ない支援者でも
支援しやすくなった。

学習の導入で「やさしい数学」を活用しています。全てを日本語で説明するのは言葉が難しくなかなか理解ができませんが、「やさしい数学」には視覚的な説明があるので、それをもとに子どもに合わせた説明を補いやすくなりました。一般の問題集と比べて内容が細かく分かれているため、さかのぼって確認もしやすくなりました。

「やさしい数学」を使った日、普段は口数の少ない子が「今日は楽しかった」と言ったのが印象的でした。知らなかったことを知ることができたのが、その一言につながったのではないかと思います。